ねえねえ　くろしおくん（えびす祭りでねんりんピックをアピール）

さかわ Sakawa 議会だより

53
2013.2.1

発行　高知県佐川町議会

12月定例会

contents　目次

不動ガ岩屋洞穴遺跡（尾川西山）

副議長・常任委員会委員決まる　2

上町再生には駐車場必要（一般質問）　10

議会懇談会を初開催　14

ヘリ臨時着陸場の設置を（あの質問のゆくえ）　18

高北病院・耐震化工事
10月完成目指し急ピッチ

10月26日に臨時会が開かれ、副議長や各常任委員会の委員長をはじめ、議会の新しい人事構成が決まりました。

安心・安全な町づくり進めたい

副議長
氏原　義幸

このたび、議員の皆さまのご推挙により副議長に再任されました。誠に身に余る光栄とともに改めて責任の重大さを痛感し、身の引き締まる思いがしています。

東日本大震災から1年10カ月になりますが、進まぬ復興事業、がれき処理、原発事故処理など一日も早い復興を願っています。

国の政治も昨年の衆議院選で自民党が大勝し、自公連立政権に戻りましたが、政権が安定して、一日も早く景気がよくなることを願うところです。

本町でも残された公共施設などの耐震化を早急に進め、安心・安全な町づくり、少子高齢化対策、産業振興などの事業を進めていかなければならないと思っています。

町民の皆さまのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

議会運営委員会

議会の日程、議案や一般質問の取り扱いなど議会運営を円滑に行うために必要な事項や、議長からの諮問事項を審査します。

◎委員長　○副委員長

前列右より
西村　清勇
◎藤原　健祐
徳弘　初男

後列右より
○岡村　統正
松浦　隆起
松本　正人

総務文教常任委員会

主に総務課、税務課、教育委員会などの所管に関する事項、請願、陳情を調査・審査します。

◎委員長　○副委員長

前列右より
永田　耕朗
○西村　清勇
◎徳弘　初男
今橋　寿子

後列右より
坂本　貞雄
片岡　勝一
氏原　義幸

産業厚生常任委員会

主に産業建設課、国土調査課、健康福祉課、町民課、病院などの所管に関する事項、請願、陳情を調査・審査します。

◎委員長　○副委員長

前列右より
藤原　健祐
○中村　卓司
◎松本　正人

後列右より
嶋﨑　正彦
岡村　統正
松浦　隆起
森　正彦

12月定例会で決まりました

12月定例会は、12月7日から12日までの会期で開かれました。
平成24年度補正予算をはじめ、条例改正など議案5件、諮問2件、意見書2件を審議し、採決の結果、賛成全員で全件可決しました。

12月 補正予算 ピックアップ

平成24年度12月補正予算

（単位：万円）

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		△186	62億5,600
特別会計	国民健康保険	2,012	17億4,210
	病院事業	3,740	35億2,508

病院事業会計の予算額は（収益的支出額＋資本的支出額）を計上

人事

人権擁護委員候補者の推薦

宇賀　さよ子　氏
佐川町甲1612番地21

安田　節子　氏
佐川町中組1084番地2

更生医療費 700万円

身体障害者が日常生活、職業生活などを営む上で、身体の機能障害を軽減、または改善するための医療費を追加増額するもの。

ひとり親家庭医療費 150万円

ひとり親家庭医療費の支給対象者が増加したことにより、増額するもの。

平成24年 第2回臨時会

10月10日開会

平成24年 第3回臨時会

10月26日開会

物品購入契約締結

佐川町防災行政無線戸別受信機購入
（契約の方法）随意契約
（契約金額）1047万6375円
（契約の相手）三電計装株式会社
（賛成全員）

工事請負契約の変更契約の締結

佐川町立尾川小中学校耐震補強・大規模改造工事
（変更理由）体育館の天井が下地に十分固定できていなかったため、落下防止対策としての改修などの増額。
（契約金額）1億8924万5700円
1211万700円の増額
（契約の相手）晃立・大原特定建設工事共同企業体
（賛成全員）

平成24年 第4回臨時会

11月19日開会

平成24年 第5回臨時会

11月26日開会

工事請負契約締結

街なみ環境整備事業
浜口邸改修工事
（契約の方法）
指名競争入札
（契約金額）
5072万250円
（契約の相手）
大原建設株式会社
（賛成全員）

改修が進む浜口邸

条例改正

職員・期末手当の支給率引き下げ

県人事委員会の勧告に基づき、職員（特別職含む）の期末手当の支給率を0・05月引き下げるもの。

（賛成6・反対6
議長裁決により可決）

意見書 国にもの申す

総理大臣をはじめ、
関係機関に意見書を提出

アスベストによる健康被害の救済と対策を求める意見書

（提出者　松本正人）

「石綿による健康被害の救済に関する法律」を改正し、指定疾病を拡充すること。検査・医療体制の確立を急ぐとともに、そのための費用等について必要な措置を講ずること。また、検査費用の補強等も同様とすること。被災労働者の家庭や工場の周辺住民の健康管理体制と補償を充実すること。社会福祉施設、医療機関、学校等、多数の住民が利用する公共・民間建築物のアスベスト除去を促進するため、助成制度や融資制度等の支援措置を講ずることなどを早急に実施するよう強く要望する。

（要旨）
（賛成全員）

安全・安心の医療・介護実現のための夜勤改善・大幅増員を求める意見書

（提出者　松本正人）

地域住民が安全・安心の医療・介護を受けられるために、看護師等の大幅増員・夜勤改善を図る対策を講じるよう、厚労省5局長通知に基づき、看護師など夜勤・交代制労働者の健康を守り、労働環境を改善すること。

また、医師・看護師、介護職員など大幅に増員することを国に要望する。

（要旨）
（賛成全員）

8人が町政を問う

ここが聞きたい

松浦　隆起　議員

子ども・子育て関連3法

取り組みは

健康福祉課長　**ニーズ調査、行う**

「子ども・子育て関連3法」に関する新制度が、早ければ27年度から始まる。「子ども・子育て支援法」では、「地方版子ども・子育て会議」を設置することが、努力義務化されている。また、支援事業計画を作る必要がある。新制度への取り組みは。

下川健康福祉課長　関連3法に関しては、その重要性に鑑み、24年度は、情報収集、町内保育所等の意見交換を検討している。25年度には、「佐川町子ども・子育て会議」の設置、「支援事業計画」策定に向けたニーズ調査を行う計画であり、25年度予算に反映させる。

家族防災会議の日

設定しては

総務課長　**検討を進める**

一人一人の防災意識を高めていく観点から、「わが家の防災チェックシート」を配布し、このシートをもとに、家族で防災について話し合う「家族防災会議の日」を設定してはどうか。

岡林総務課長　防災意識の高揚を図ることは防災・減災に必ずつながる。

自助・共助の観点に立ち、「防災チェックシート」の作成と「家族防災会議の日」の設定について、検討を進めたい。

子どもたちにも防災意識を

緊急時の安心カード

作成しては

健康福祉課長　**実行していく**

現在、配布されている「救急医療情報キット」の配布対象者は、災害時の要援護者となっている。これを拡充し、高齢者世帯すべてに配布してはどうか。

また、携帯できる「緊急時の安心カード」の作成も進めてはどうか。

下川健康福祉課長　「救急医療情報キット」の配布拡充は、自助の範囲の中で取り組みを検討したい。

携帯カードの作成は、行政として、実行していくべきと考える。各自が必要事項を記入し、自己管理をすれば、有効と考える。

もしもの時に備えておきたい

25年度予算編成

民意置き去り

町長　おろそかにしていない

榎並谷町長　霧生関公園も生活道もどちらも大事だ。ただ、一般財源は厳しいので、辺地債や有利な補助、起債を使って基盤整備をするのが基本だ。

　将来、町民に負担のかからない形で、町の活性化につなげたい。大きな事業をやるから小さな事業がおろそかになっているということではない。

森　正彦　議員

　25年度の予算編成で、霧生関公園のような大きな事業を推進する中で、道路の改修など、町民が切に願っている小さな事業が置き去りになっていないか、十分検討して編成すべきだ。

町内にいまだ多く残る狭い町道

図書館建設

署名どう捉えた

町長　疑問に思う

　「佐川町に初めての図書館建設を求める会」から、4237人の署名とともに請願書が提出されたことについて、町長はどう捉えたか。

榎並谷町長　今の図書館は、1千万円余りの予算を入れ、駐車場、書棚、電子システムの整備を行い、若干効率が上がったと認識している。今、新しい図書館が必要か、疑問に思う。

　青山文庫も老朽化しており、図書館にしても青山文庫にしても多額の予算を要することから、新しく建てかえることには、一歩を踏み出せない状況だ。今後、青山文庫と兼ね合わせて真剣に考えていかなければならない。

太陽光発電補助事業

効果的な制度に

産業建設課長　十分協議する

　25年度も太陽光発電の補助事業を実施するのであれば、金額を低い金額にし、より効果的な制度としてはどうか。

　また、請負業者は、町内業者を優先しては。

渡辺産業建設課長　太陽光発電の補助事業は、25年度実施の重点事業に挙げられ、実施の予定。

　本年は、26件中半数以上が町外業者であった。来年度については、状況も勘案しながら十分協議し、補助制度をより効果的に普及が進むようにしたい。

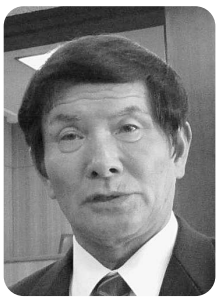
普及が進む太陽光発電

橋・町営住宅の地震対策

進んでいるか

産業建設課長　調査設計・工事に着手

地震の際、建物の倒壊が心配される。本町の橋、町営住宅などの地震対策は進んでいるのか。



氏原　義幸　議員

渡辺産業建設課長　町営住宅は、耐震診断調査を実施し、耐震性が確保されている。

　橋の耐震化は、役場前の佐川橋は調査設計を行い、来年度から工事に着手する。その他の橋は、地域防災計画の見直しに基づき、緊急時のネットワークとして機能する必要がある道路を設定し、その道路上の橋について、調査設計、工事に着手していきたい。

耐震診断を行った佐川橋

障害者の避難場所

確保、必要

総務課長　利用計画、検討

被災時において、一般の避難所では生活に支障をきたす障害者の避難場所の確保が必要となる。本町では、その対策はできているか。

岡林総務課長　本町では健康福祉センターかわせみを福祉避難所に指定している。一般の避難所にも指定されているので今後、検討する必要がある。

　来年度、見直す予定の地域防災計画の中で、福祉避難所の利用計画も検討したい。

鳥獣被害・駆除費

予算を3倍に

町長　効果的な方法、探る

最近、農産物の鳥獣被害が増加しており、みんなが大変心配している。駆除費の80％は、交付税で措置されると聞くが、昨年の3倍くらいの予算を組めないか。

榎並谷町長　里山を守り、農産物を鳥獣から守っていかなければならないと考えている。予算のつけ方は、より効果的な方法は何かということを探り、猟友会の皆さんの意見を聞きながら行政として、きちっとした取り組みを行う。

その他の質問

○町長、2期目の公約はどれだけ実現できたか。

福祉避難所となっている、かわせみ

基本計画

どう考えるか

町長　見直す必要ある

中村　卓司　議員

町が策定した基本計画に照らし合わせた事業が実施されていないものがある。基本計画を、どう考えているか。

今後における元気な佐川町を構築するための展望、計画、また、来期予算についてどう考えるのか。

榎並谷町長　行政をあずかる者として、預かった限られたお金を上手に使いながら、１００％までいかなくても、ある程度の満足を与えられる予算執行が基本である。

ハード面でも必要最小限のものは構築し、将来、住民の方々が利用できる、負担のかからない施設であることが基本的な考え。

また、基本計画については、一度検証をして、見直す必要がある。

高齢化社会への対応が急務

老人介護施設

待機者対策は

健康福祉課長　施設整備を計画

超高齢化社会になっていく手だてとして、老人介護施設への入所待機者対策をどう考えるのか。

下川健康福祉課長　本町の待機者１０９名のうち緊急度が低い方を除けば、在宅で待機されている方が24名という状況である。

本年度から26年度までの３年間は、第５期高齢者福祉計画、介護保険事業計画期間となっている。この計画では、グループホームを９床、認知症デイを12名、ショートステイを20床整備することになっている。

特別養護老人ホームは、待機者数を反映させ29床、整備を計画している。

ふれあいサロン

減少への対策は

健康福祉課長　続ける施策必要

楽しいひととき　ふれあいサロン

ふれあいサロンの数が減少している。その対策が必要ではないか。

下川健康福祉課長　原因は協力員さんの高齢化や後継者が育ちにくい環境にあると考える。

また、百歳体操が拡大し、役割を担い直しをしている部分もある。サロン活動は、介護予防には重要な役割を果たしており、今後とも続けていける施策は必要である。

その他の質問

○役場における委員任命制度の見直しは。

片岡　勝一　議員

太田川・埋立処理場

管理状況は

町民課長　維持管理を検討

太田川・倉谷の町有地は、昭和49年から平成11年の25年間、一斉清掃時等の埋め立て地となっていた。満杯となり覆土してそのままとなっている。雑草も生え、進入路も荒れて15年経過している。当時、定期的に水質検査をして、地元に報告することになっていたようだが、報告はないと聞く。

その後の管理状況と利活用計画はどうか。

横山町民課長　昭和49年供用開始後埋め立てを行い、満杯となり、現在は利用休止となっている。水質調査を行う約束をした文書は残っていない。

平成8年度より16年度まで、毎年ではないが水質調査を行い、最終年度の調査でも環境基準を満たしている。その後、調査は行っていない。

草刈り等の管理はしていないが、維持管理の検討はしたい。

太田川・倉谷の埋め立て地

上町の再生

駐車場、必要

町長　非常に厳しいが検討したい

上町の歴史まちづくり事業は、佐川文庫庫舎の移築、浜口邸の改修、牧野生家の再生、そして8月には名教館も移築すると聞いている。文教のまちとして、より充実した町へ発展し産業振興につながると考える。

しかし、このような施設には、駐車場やトイレは絶対必要であり、整備するべきだ。

榎並谷町長　上町の再生は、国の歴まち法に基づき、認証を受け、国、県の補助で取り組んでいる。

上町の再生を進めていく上で、ネックは駐車場である。駐車場の確保は、非常に必要なことであるが、地理的に非常に厳しく、現在まできているが、ぜひ、検討していきたい。

庁舎屋上の時計

早急に結論を

町長　本当に必要か検討

庁舎屋上の時計は正確でないと、町民から指摘がある。町長の説明では修理代に1千万円かかるとのことであり、今の時代必要ないのではとの話もあり、結論は出ていない。

また、柳瀬橋の中間にある時計も故障中だ。どちらも早急に結論を出すべきだ。

榎並谷町長　時計の止まっている姿に、非常にわびしい思いをしている。庁舎と柳瀬橋の時計も根本的には解決できていない。庁舎の時計は、修理に1400万円もかかるという話もあり、今、時計が本当に必要か、検討している。

柳瀬橋の時計は、子どもたちが通学路に使っており、早く修繕したい。

止まったままの時計、どうする

坂本　貞雄　議員

就学援助のうち、ＰＴＡ会費、生徒会費、クラブ活動費の３費は本町では支給されていないか。

一括交付金にこの３費が含まれており、町村の姿勢が問われる。文教のまちとして３費支給をどのようにしていくか。

川井教育長　就学援助にかかる３費は支給していない。給食費と修学旅行費を全額支給としたためだ。

すでに県内の３町村で支給されており、来年度からこの３費を支給する方向で先進町村の状況を聞きながら検討していき

就学援助・３費支給
本町、どうする
教育長　支給する方向で検討

一人一人に合わせたケアプランを作成

介護・生活援助時間短縮
現状は
健康福祉課長　適切にサービス提供

介護保険の生活援助時間が短縮され、調理時間が足りない、コミュニケーションがとれないなどの問題が起きている。本町の現状はどうか。

また、これによって事業所の収入が減ったとの話を聞く。実態をどう捉えているか。

下川健康福祉課長　生活援助時間の短縮でサービス低下が心配されたが、ケアマネージャーの適切なサービスプランにより利用者の状況に応じたサービス提供が行われている。

事業所に過度の負担がかかるようであれば、相談に応じ、適正なサービス事業へと内容を変化させていく努力はしたい。

町営住宅
加茂に建設を
産業建設課長　構想は立てていない

拡張工事が進む県道297号線（本村東）

県道、高知西バイパスの整備が進むと加茂から高知へ30分で通勤できる。本町の人口増のため加茂地区に若者向け町営住宅を建ててはどうか。

渡辺産業建設課長　加茂地区は、立地条件は非常によく、生活するのに申し分ないところであるが、現状では、地元の部落長会はじめ住民からの要望が上がっていない。財政的な問題もあり、加茂地区への町営住宅建設の構想は全く立てていないのが実情である。

その他の質問

○地方交付税延期の本町への影響は。

生活保護基準

見直しの影響は

健康福祉課長　低所得者層に及ぶ

松本　正人　議員

今、政府を中心に生活保護基準の見直しが進められている。このことは、住民税の非課税限度額、介護や保育、住宅などの料金、就学援助費制度などに連動しており、多くの町民生活に直接、影響を与えることになる。

どういった認識を持っているのか。

下川健康福祉課長　基準が引き下げられた場合には、現に生活保護を受給している人だけでなく、生活保護を受けずに頑張っている低所得者層にも大きな影響が及ぶ。

川井教育長　現在、就学援助を受けている家庭が外れる可能性がある。

河添税務課長　地方税法が改正される可能性がある。非課税世帯が課税世帯になり、税条例において減免の対象から外れることが考えられる。

家の再生が経済対策につながる

住宅リフォーム助成事業

実施しては

産業建設課長　考える余地ある

住宅リフォーム助成制度は昨年までに、全国で330自治体、今年は533自治体で実施されている。この制度は、基本的には20万円を限度にリフォーム費用の20％を助成するものだ。須崎市と四万十町では当初予算では足らず補正予算を組んだ状況にある。工事は地元業者に限られ、利用者にも、業者にも喜ばれる制度だ。実施してはどうか。

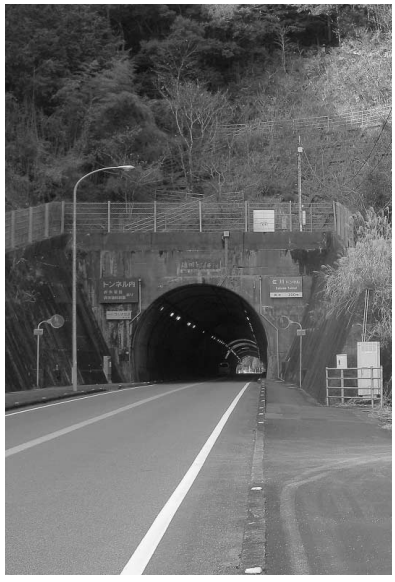
渡辺産業建設課長　この制度は、経済対策という側面があるが、一方で個人資産の価値向上へ補助金を出すという側面がある。今やるべきは、防災、減災という観点であり、耐震改修を優先せざるを得ない状況である。

住宅リフォーム助成事業と組み合わせることにより、耐震化事業が円滑に進むのであれば考える余地は十分ある。

霧生関公園

どうするのか

町長　当初の目標どおり造る



開通が待たれる佐川歩道トンネル

霧生関公園の工事は、現在までに3億1千万円かかっているが、そのうち8割が交付税措置される。この事業を完全にストップさせれば、2億4千万円以上を国に返さなければならなくなる。最終的な町単独の負担が、1億6千万と想定されているため、余計に損になる。

やめるわけにもいかず、前にも進めない状況だ。これからどうするのか。

榎並谷町長　佐川トンネルの工事による残土の受け入れも予定しており、25年度中には無理ではないかと考えている。

当初の目標どおり、町民の方々に広く利用してもらえるようなものを造っていけるよう努力をしていく。

牧野富太郎生誕150年記念事業

来年度以降は

産業建設課長　さらに発展させたい

取り組んだ結果と来年度以降の取り組みは。

渡辺産業建設課長　住民組織で取り組む補助事業を10件実施し、中でも地域産品を活用した司牡丹の清酒「花と恋して」と、とみ富券の発売が大変好評であった。

「博士の聖地を歩く」ウォークも大変反響があった。これらをさらに発展させ地域振興、観光振興、産業振興を図っていきたい。

川井教育長　来年度以降の取り組みとして、青山文庫で、牧野博士の常設展示を行っていきたい。

牧野富太郎生家を模型で再生

今橋　寿子　議員

牧野富太郎生誕150年記念事業は、1年を通してのプロジェクトであり、24年度で終わるが、25年度以降も継続していくことによって、成果として実っていくと考える。

男女共同参画

女性の登用を

町長　男女は問わない

男女共同参画を唱えられて十数年になるが、議会の場にも女性の管理職は1名しかいない。現在、女性の管理職の割合と審議会の女性の割合はどのようになっているのか。

女性の登用は、男性に対しても一つのげきになる。人材を生かす意味でも、積極的に女性の登用を考えては。

岡林総務課長　一般職は123名中女性58名、男性65名。管理職は28名中女性6名。審議会は132名中20名であり、他の市町村から比べても少ないので、女性の割合を増やしていくことがベターだと思っている。

榎並谷町長　男女を問わず、役場の中枢となって働いていただきたい。

港湾工学の世界的権威　広井勇

文教のまち

誇れるものは

教育長　多くの偉人を輩出

文教のまちとして一番誇れる部分は何か。

開かれた学校として取り組んでいる現状は。

川井教育長　文教のまちとして誇れるものは、偉大な先人を数多く輩出してきたことであり、名教館を通じて、教育に熱心な地域であったことだと思っている。

「家庭でしつけ、学校で学び、地域で育てる」と昔から言われている。その3つの役割がうまくいかない現状の中で、学校から情報を発信し、地域、保護者の皆さんの力を借りて、開かれた学校づくり、地域とともに歩む学校、そういった方向で進めている。

会を開催

11月23日に、初めての議会懇談会を、部落長を対象に開催し、35人の部落長が参加しました。

議会側からは、各常任委員長から、23年度決算、24年度当初予算の概要、高北病院の耐震化工事と経営状況の概要について説明をしました。部落長からは、生活道の安全対策や町が進めている施策などについて、幅広い要望や意見が寄せられました。

今後は、各地域へ出向き、懇談会を開催する予定になっています。

霧生関公園事業 一体どうなっているのか

問 霧生関の問題は、工事が止まったままになっている。一度素人が描いたような青写真が出てきたが、一体どうなっているのか。

答 今トラブルになっているのは、隣接する土地の所有者との約束が履行できない状況にある。その方の許可が得られない限り、事業が進まない。

問 霧生関については、「あの日当たりの悪い場所で、一体何をするのか、いつまでほっとくのか」との声が大半だ。それが議会で通っていくのはなぜか。

答 今、国交省と国道の法面譲渡の手続きをしている。また、隣地の承諾がなければ新たな開発申請ができない。今、その交渉をしている段階であり、計画がなくなったという状態ではない。

問 霧生関の問題は、地権者の許可が取れていないというのは、見切り発車のように見える。

答 今、振出しに戻って、新たな開発をしなければならないということで、手間取っているというのが、実際の内容だ。

旧佐中グラウンド 整備必要か

問 旧佐川中学校のグラウンドを整備することは結構なことだが、1億いくらもつぎ込み、必要が本当にあるのか。

答 大きな金額を投資した認識はあるが、文化センターのグラウンドが中学校の運動場になったこともあり、社会体育施設として整備しなければならないということで進めてきた。

病院の内容の充実を

問 病院は新しくなるが、どういった医師をどれだけ入れるかといった、方向性など、病院の内容の充実に向けた計画などは持っているのか。

答 傾向として、地方に医師が来たがらないという現状があり、都会の方へ流れている。医師を地方に確保するというのは、高北病院だけの問題ではなく、全体として頭を悩ませている問題のひとつではないか。

— 住民の信頼に応えられる議会へ —

議会懇談

住みよい、安心・安全の町へ 多くの要望が上がる

問 春日部落の通学路となっている県道に設置されているポール（交通安全施設）が20本中13本折れている。

答 教育委員会に伝えて、調査・確認を行う。

《対応》12月7日現在、修繕完了

問 長竹部落の竹ノ倉の町道は、救急車が来ても回すところがない。町に言っているが、広がっていない。

南国市で軽四の救急車ができている。狭い道の所では大変役に立つのではないか。

答 町道の拡張は、ひとつの課題であり、現場を見せてもらう。

救急車は、高吾北広域町村事務組合で運営しており、本町独自で救急車を用意することはできないが、意見があったことは広域議会に伝える。

《対応》小型救急車の件については、広域事務組合より「現状は、小さい車で運び出し、救急車に乗せ換えて搬送しているため、導入は考えていない」との回答があった。

竹ノ倉の町道は、12月7日に、産業厚生常任委員会が、現地を調査。

遊学館の現地調査を行う総務文教常任委員会

問 遊学館のグラウンドは、ボール遊びが禁止になっており、子供たちがボール遊びをする場所がない。ネットを高くするには、費用が高くなると言われた。

答 教育委員会と一緒に調査を行う。

《対応》12月7日に、総務文教常任委員会で現地を調査。教育委員会に伝え、対応を協議中。

部落長から議会へ 提言

○町民の代表として、党派を超え、議員同士で意見を交換し、取り組んでもらいたい。

○町当局と議会がもっともっと話し合いをして、どこに問題があるのか、どうしたら解決できるのかということを進めてもらいたい。

○議会はもっと議論を重ねて、あまり党派的なことは言わず、みんなが一丸となり、町のため、住民のために働いてもらいたい。

○議会においては、慎重に賛成・反対を。

○非常に意義のある会であり、今後も続けていってもらいたい。

○議会からの報告会なので、町当局に対して、どういった問題提起を行い、どう判断したのか、教えてもらいたい。

○町当局に対し、チェック機能を果たし、緊張感を植え付けていってもらいたい。

○文教のまち佐川というが、文教の方は全然遅れている。ぜひ、進めてもらいたい。

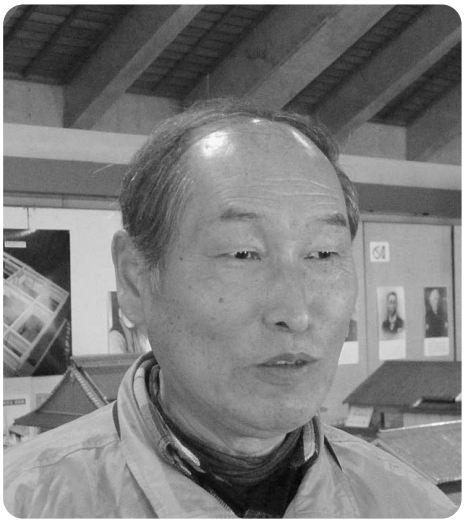
○こういった会を各地区で行い、地域の声を聴いてほしい。

○住民の声をどう聴き、行政に生かしていくのか。そういった仕組みづくりを進めてもらいたい。

わがまち

人

わがまち「人」では、この佐川のまちで元気に活躍されている方にスポットをあて紹介します。
今回は、残していきたい佐川の建物の模型作りに取り組む、栗田眞二さんにお話を伺いました。



栗田　眞二　さん

歴史ある建物を模型で作成

―古い建物の模型を作り始めた動機は。

退職するまではラジコンやヘリコプターの模型を作っていましたが、人に役立つ何か残るものをと思い、佐川には古い立派な木造建築があるのでこの模型を作ってはと思い、始めました。

―最初に取り組んだ建物は。

風格が好きで、最初に青源寺を作りました。
予想以上に評判がよく、次々と作り、牧野富太郎の生家で15作目となりました。

―苦労されたことは。

いかに本物に近づけるかということです。一つの模型を作るのに写真を３００枚くらい撮ります。襖や障子、雨戸も動きますよ。

佐川の町並みをアピール

―随分時間がかかるでしょう。

暇なときにコツコツ、切ったり、貼ったり、削ったりして作るため、４カ月から６カ月近くかかります。

―模型作りの醍醐味は。

やっぱり、仕上がった時ですね。難しいほど感激は大きいです。

佐川の歴史建物がずらり（佐川地場産センター）

それと、見てくれた人がすごいと言って驚き、褒めてくれることです。
また、観光の一助となって役立つのもうれしいです。

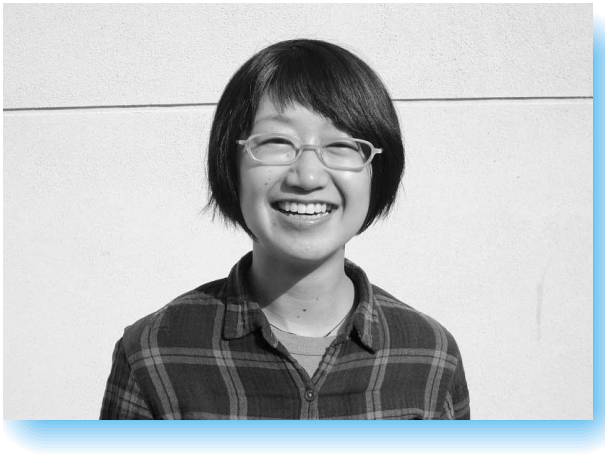
―今後の目標は。

御土居屋敷の写真と図面が残っているので、これに取り組みたいと思っています。
今まで町人の建物でしたので、次は、５年くらいかけて、武家屋敷の復元をと思っています。

ありがとうございました。武家屋敷の復元模型を楽しみにしています。お元気で頑張ってください。ご活躍を期待しています。

あなたの周りに、人知れず「佐川のまち」の元気のために活躍されている「人」をぜひ、ご紹介下さい。
ご連絡は議会事務局まで。

♥佐川に恋して♥ 佐川町へのラブレター



坂本（さかもと）　梨恵（りえ）　さん

地域おこし協力隊　（山田）

■佐川町のどんなところが好きですか。

明るくパワフルで何でも作ってしまう、魅力的な方々が多いところと、自然がすごく豊かなところです。

■この仕事を選んだ理由は。

緑のふるさと協力隊の経験を生かし、現在取り組んでいる、ソエルの有機農業の取り組みに共感し、ぜひかかわっていきたいと思いました。

■仕事は楽しいですか。

大変なこともありますが、基本的には楽しくやっています。

■これからの夢はなんですか。

有機農業を身につけて自分で農業をしたり、農業者の支援をする仕事をしていきたいです。

梨恵さんの今後の活躍を期待しています。頑張ってください。

視察研修・議会広報編集委員会

読みやすく、親しみのある紙面づくり目指して

10月29、30日、鳥取県北栄町議会、広報公聴常任委員会へ視察研修に行きました。

北栄町議会の「議会だより」は議会広報全国コンクールで最優秀賞、鳥取県町村議会広報コンクールで最優秀賞、優秀賞など、常に受賞していることから研修先に決めました。

本町は基本的に議席番号1番から5番までの議員が編集委員ですが、北栄町は自己参加形式をとっており編集委員として自ら進んで参加しているとのことでした。

委員構成は6名、任期は2年となっています。

また、パソコンの編集ソフトは印刷所と同じものを使い、編集でレイアウトしたものを業者にメールで送信しており、一般質問者からは、質問の要約をメールで送信してもらっているとのことでした。

「さかわ議会だより」のクリニックをお願いした結果、見出しの字の大きさなどはもう少し大きく、表現は簡潔に、議員の質問文は少し字を大きく黒色にしては、などの指摘を受けました。

今後、この研修で得た成果を生かし、より読みやすく親しみのある紙面づくりに取り組んでいきます。

委員長　岡村統正

追跡 あれはどうなったが？

あの質問のゆくえ No.24

ヘリ臨時着陸場 設置すべきだ
（平成23年12月定例会）

災害時に孤立が考えられる、尾川の峰、黒岩の四ッ白、斗賀野の川ノ内、舟床など救急搬送に時間がかかる地区へ、防災ヘリ・ドクターヘリの臨時着陸場を設置すべきだ。

（岡村統正　議員）

工事が始まった町内初のヘリ臨時着陸場

町長答弁

尾川地区に設置

県が取り組んでいる集落活動センター支援事業が、来年度、尾川地区で取り組むことに伴い、本町で初めての、ヘリ臨時着陸場が「ふれあいの里　尾川」公園内に設置される。現在、完成に向けて工事中。

どうなった

基本方針決め、取り組む

救急医療が不備のため命を落としたり、孤立することが考えられる地区へ優先的に設置を考えている。町民の方々の全体の合意が必要であり、議会でも議論していただき、町としての基本方針を決めて取り組んでいきたい。

あなたが選んだ議員の仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は3月8日午前9時開会予定です。傍聴においでください。

編集後記

一昨年は、地震、大津波、原発事故と近年例を見ないような悲しい出来事が起き、この惨事に立ち直れなくて心が沈んでいる中、昨年8月にロンドンオリンピックが開催され、日本は史上最多数となる38個のメダルを獲得し、選手の活躍ぶりに感動、感激しました。

また、京都大学の山中伸弥教授がノーベル医学・生理学賞を受賞し、3年前には、7年1カ月をかけて、「探査機はやぶさ」が、小惑星イトカワから地球に微粒子サンプルを持ち帰りました。日本中に大きな希望を与え、言葉では言い表せない喜びと、勇気を与えてくれました。

文教の町・佐川は、数々の偉人を輩出している。偉業を成し遂げた方々の想像もつかない精神力、努力、技術の高さに改めて励まされ、佐川町の発展に向けて、頑張らねばと思う昨今です。

片岡

議会広報編集委員会

委員長　岡村　統正
副委員長　坂本　貞雄
委員　松浦　隆起
委員　片岡　勝一
委員　森　正彦

※わかりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。

□ 発行／佐川町議会　□ 発行責任者／議長 永田 耕朗　□ 編集／議会広報編集委員会
□ 〒789-1292 高知県高岡郡佐川町甲1650-2　□ TEL （0889）22-7702　□ FAX （0889）22-7385